



2020年度 年主題 「こころが満たされる」

0・1・2歳児 4月主題 「はじめまして」

月のねがい

- ◎ 神さまからのいのちをいただいた存在として大切にされる。(0)
- ◎ 一人ひとりの生活リズムや発達段階を大切にされて過ごす。(0)
- ◎ おだやかでやさしいことばをかけられ、満たされて過ごす。(0)
- ◎ 保育者の姿やことばを通して神さまと出会う。(1.2)
- ◎ 新しい環境や友だちに出会う。(1.2)
- ◎ 自分らしさを受け入れられ、安心して過ごす。(1.2)

3・4・5歳児 4月主題 「神さまの愛に包まれて」

月のねがい

- ◎ 祈りやさんびかを通して、目には見えない神さまを知る。(3)
- ◎ 自分の好きな場所や好きなことをみつける。(3)
- ◎ どんな自分でも受け入れられていると感じ安心する。(3)
- ◎ 祈りや賛美、聖書のお話を通して、神さまとの交わりを感じる。(4.5)
- ◎ 受け入れられていることを感じ、安心して過ごす。(4.5)
- ◎ 春の自然に触れながら遊ぶ。(4.5)
- ◎ 新しい環境に興味をもって関わる。(4.5)



めいろうこども園へようこそ!

色とりどりの花が咲き始め、園内の小さな田んぼにはおたまじゃくしが泳ぎ始め、春がやってきました。鉢の裏を覗き込んでダンゴムシ探し、飛び回る蝶々の追いかけっこ、手いっぱい握り締めたきれいな花、春の訪れを楽しんでいる子どもたちです。こども園にはニワトリやヤギなどの動物、カニやクワガタ、様々な草花、小川など自然がたくさんあります。いろんな発見に目をキラキラさせ、「なんだろ?」と不思議に思い、友だちと調べ合い、遊びに取り入れて…とたくさんの体験をすることでしょ。



さて、一つお兄さんお姉さんに進級した子どもたちは、新しいクラスにちょっぴり緊張した様子でスタート。新しく入園したお友だちは、涙がいっぱい溢れ声の大合唱です。子どもたちにとって初めての場所、園生活にドキドキ、不安いっぱいでのスタートだと思います。

先日の卒園式で保護者の方が、「入園したばかりの頃は子どもが泣いて泣いて登園していたのに、慣れてくると『先生ー!!!』と手を伸ばして笑顔で登園するようになり、毎日こども園の生活を楽しくてホッとしました。あつという間の楽しい園生活でした。」と涙ながらに話してくださいました。

新しい環境に置かれご両親と離れるわけですので、しばらく登園を渋ると思いますが、元気に「行ってらっしゃい! いっぱい遊んでね!」と見送ってあげてください。そして帰ったらぎゅーっと抱きしめてあげることで、お子さんの心が安心して満たされることと思います。いつの日かこども園を飛び立つその日まで、どうぞよろしくお祈りします。今年度も子どもたちが笑顔で過ごせますように心から祈っています。 大河

今月の聖句 「わたしはよみがえりです。いのちです。」 ヨハネ 11:25

電池で動くおもちゃに慣れている子どもが、生まれて初めてカブトムシを飼いました。クワガタと違い、カブトムシは冬を越すことなく死んでしまいます。動かなくなったカブトムシを見て、その子が言いました。「パパ、電池代えて!」と。

人間のいのちも電池を交換するように、新しく出来たらどんなにいいでしょう。しかし、果たしてそうだろうか、とも思います。臓器移植手術を受けた方々は、その後万能なわけではありません。しばらくしたら、又、手術を受け、新しい臓器に交換しなければなりません。そのように、私たちの生物学的いのちには、どうしても限界があります。

けれども、私たちは物理的に生きていくだけではなく、目に見えない部分、つまり、霊的、精神的部分にもいのちを持ちます。愛する者に先立たれても、その人の思い出は人々の心の中に残り続けます。肉体的に元気でも、霊的に死んだも同然の状態もあり得ます。逆に、肉体的には死ぬべき者でも、霊的に新しいいのちに生き続けることもある。そう信じる者は、まことに幸いな希望に生きることが出来ます。今年4月12日、教会ではイースター(復活記念日)を迎えます。イースターはそのような希望があることを、私たちに思い起こさせてくれます。

イエス・キリストは、「わたしはよみがえりです。いのちです」と言いました。この聖書の言葉はまさにその霊的な新しいいのちを指し示すのです。 西之表基督教会 協力牧師 池田基宣

4月の行事予定

4日(土)	入園式、クラス会(親子で降園)
6~10日	新入園児午前保育(1号)
6日(月)	田植え
18日(土)	親子遠足、父母会総会
28日(火)	4月誕生会(10:00~)

5月の行事予定

7日(木)	交通安全教室
8~22日	家庭訪問
14日(木)	5月誕生会
14日(木)	給食試食会(にすすすみれ)
19日(火)	弁当日
21日(木)	給食試食会(たんぼぼ)
23日(土)	家族の日参観
未定	前期中科検診



入園式

やさしくいってね
おかあさん おこるとき
「やめてくださらね」って
やさしくいってね
そうすれば「はい」って
やさしくいってね
「じゃあ」って
「じゃあ、そういうことするから」
おこあさん
そういう「じゃあ」って
いっちゃいけないよ
6歳児(東京)



花冷えの後は、春めいた日差しが白や赤に咲き誇るツツジに降り注いでいます。心地よい風に吹かれて、木々の緑や遊具が愛らしい子どもたちが来るのを楽しみにしているようです。ご入園、ご進級おめでとうございます。改めて続々ご縁と新しいご縁に心から感謝し、子どもたちの健やかな育ちを共に願ひ、祈りを重ねていきたいと思います。

本園は幼児教育・保育の道標として、「キリスト教保育」を柱としております。本年度の年間主題として、「こころが満たされる」が示されました。日々のどのような関わりが子どもたちの心を満たすのか。それは「愛されている、大事にされている」という実感を持ち、「満足できる遊び」が担保されていることだと思います。本園の建学の精神である「敬神愛人」「探求・感謝」には、人間形成の基礎を培うべく心を育てたいという願いが込められています。遠い将来の準備ではなく、幼いときにこそ経験しなければならぬものがあるのではないのでしょうか。子どもたちが自分で発見するモノや動植物たち。考えながら創り出していく遊びの数々。不思議だなど感じることも。明日もまたやりたいという意欲や探究心を何よりも私たちは守らなければなりません。そのために、保護者の皆さんにも許される範囲で楽しんで関わっていただきたいと思っています。子どもたちの育ちには、「タイケン・タンケン・タイエン」が必要だと考えています。保育活動や行事で味わう様々な体験(吸収)。未知の世界へ興味・関心を寄せる探検(探求)。そして、少し大変(克服)なことにも挑戦する意欲。今年もこのキャッチフレーズでもっと育ち会いたいと思います。

集団生活を初めて経験する子どもたちにとって、園生活は期待と不安の混じったものでしょう。初めての環境は大人でも緊張します。何より「だじょうぶだよ!」という言葉が安心へと導きます。「わたしたちは見えるものではなく、見えないものにも目を注ぎます。見えるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存続するからです。」と聖書にあります。神さまが与えて下さるこの環境の中で、こころが満たされて喜べる生活を共に目指して参りたいと思います。子どもたちがいるがままの「自分」をしっかりと生きていけるよう祈りつつ、保護者の皆様と心を込めて寄り添っていきたく考えております。

世の中は、連日新型コロナウイルスのニュースで溢れています。種子島ではまだ感染者が報告されていませんが、いつウィルスが運ばれて感染が広がるかもしれません。私たち一人一人が自分にも他者に対しても責任ある行動が求められます。国難ともいえる状況を国民全員で互いに協力しながら乗り越えて参りましょう。六十三年度目を迎える本年度も、職員一同心を尽くして努力して参ります。何卒ご支援の程を宜しくお願いいたします。

園長

健康な春 今シーズンの健康ポイント

生活リズムを整えましょう

生活リズム「5つの定点」

朝食の時間	昼食の時間	夕食の時間	寝る時間	起きる時間
5つの定点を急がず、ゆっくり方向づけることが子どもにとっては大切です。不規則になると、体内リズムが安定せず、朝からぼーっとしたり肥満の傾向が出てきたりしてしまいます。夜は遅寝をせずに早く寝て、睡眠時間をパツリとりましょう。そうすれば、自然に早起きできます。食事や3度の食事と1回の午後のおやつが基本です。生活リズムを整えると生体のリズムが整い、毎日元気に活動できます。間食を減らしてゆくこともできます。				

朝ごはんは1日のエネルギー源!

「時間がない」「朝ごはんを食べる時間寝ていたい」「朝ごはんを食べると太る」...
こんな理由で朝ごはんを食べない子が増えています。また、お母さん自身が朝ごはんを食べる習慣がないと、子どももおいしく朝ごはんを食べる習慣がつかれません。

朝ごはんは、朝起きて、体と頭を活動モードに切り替える大事なスイッチです。朝ごはんは1日の元気の源。バナナ1本・パン1枚からでもよいから始めましょう。そうすると次第に食べる習慣がつかれます。内容は順次ステップアップ!

健康な春

疲れたら休日にリフレッシュ

「疲れた」は休むゆとりがない時に感じる自然の警告です。休日につぶつぶと休んで、疲れをとりましょう。

食中毒に気をつけましょう

食中毒が心配な季節です。子どもは幼いほど症状が重くなります。家庭の台所でも食中毒の予防に十分注意しましょう。

【食中毒予防の基本】

- ① 手をよく洗う
- ② 肉をゆでる
- ③ 肉を揚げない
- ④ 肉を焼く

肉・魚・野菜の鮮度に注意して購入し、調理の加熱は十分に。調理したらすぐに食べましょう。生ものを扱う前や食卓につく前には、必ず手洗いをしましょう。